



はなのき

神坂小学校だより No.4 2023.6.22



命を大切に作る心を日常の中で育てる

校長 伊藤 博章

先日のネットニュースで、『田んぼの持ち主に「カエルの鳴き声がうるさい」と書かれたクレームを張り紙』という記事を見かけました。張り紙の内容は、「田んぼの持ち主様へ カエルの鳴き声による騒音に毎年悩まされています。鳴き声が煩くて眠ることができず、非常に苦痛です。騒音対策のご対応をお願いします。 近隣住民より」というものだったそうです。このニュース、どのように受け止めますか？

さて、神坂小学校ではたくさんの命が芽生えたり、育てたりしています。子供たちもその成長（生長）をうれしそうに見届けています。校舎の中庭では、ツバメがいつの間にか巣をつくっていました。ヒナが親鳥から届くごはんを食べる様子を、子供たちが見ることができました。そのヒナたちも、元気に巣立っていきました。

児童玄関前には、あさがお、ひまわり、へちま、トマト、ジャガイモ、ホウセンカなど、たくさんの植物が育っています。各学年で種をまき、毎日水やりをして芽が出るのを心待ちにしていました。その姿は、まるで「さるかに合戦」で柿の種を育てるカニのようでした。毎朝、登校した子供たちは、まずその植物たちをのぞきに行き、水をやります。芽が出たのを見つけたときは、それは大変な喜びようでした。大きくなってきたへちまやひまわりなどは、グラウンドの畑や玄関前の花壇に移植され、ますます大きく育ってきました。



校舎裏では、3年生がカワニナを育てています。6月16日に捕まえてきたホタルが卵を産み、その幼生のエサになります。エサとはいえ、生き物として大切に育てています。

1, 2年生は5月末にザリガニ釣りに出かけ、たくさんのザリガニを捕ることができました。名前をつけて大切に育て、脱皮する様子を見ることができました。

5年生の廊下には、顕微鏡が置かれていました。のぞいてみると、メダカの卵が見えました。その卵の中には、孵化する前の稚魚がいました。2つの大きな目玉と、トクトク動く心臓の様子がよく見え、子供たちも登校すると顕微鏡をのぞき、成長を確認していました。



生き物の成長（生長）を身近なものとして自然に受け止め、喜ぶことができる神坂小学校の子供たちです。この環境をこれからも大切にし、お互いの命を大切にできるよう育てていきたいです。

「命を守る」といえば、6月15日に中津川市防災無線点検のため、訓練の緊急地震速報が流れました。子供たちには何も伝えていない中での突然の「アラート音」でしたが、放送と同時に、全員がシェイクアウトの姿勢をとることができていました。その様子を見て、「命を守る訓練」での「自分の命は自分で守る」ということがきちんと生かされていると感じ、とてもうれしい気持ちになりました。